



左から荘君、福田君、森下君、井元君、中田君

かんばるこども

「2分25秒3。大会新記録です。会場のアナウンスに、大きな歓声が沸きました。8月2日に開催された高梁市学童水泳記録会（市民プール）で出た男子200mリレーの記録です。16年ぶりに更新され、これまでの記録を3秒9上回りました。大会新を出したのは、高梁小学校6年の福田雄太君、荘憲太郎君、5年の中田圭君、井元大樹君の4人。

その後、6年生の森下雄仁君とその他のコンディションで交代しながら、8月4日開催の備中地区学童水泳記録会（岡山県倉敷総合屋内水泳センター）は、2分24秒19で8位。8月20日、岡山県学童水泳大会（岡山県水泳場）では2分19秒75で11位と大会ごとに5人で記録を伸ばしていきました。

大会で力泳する児童たち（市民プール）

## やったよ!大会新記録

～高梁小学校男子200mリレー～



課後などに水泳特別練習、いわゆる「特練」を行い大会に臨みます。高梁小学校では、6月初めから取り組み、3年生以上で25m泳げる児童を対象に、「ラッコ」、「イルカ」、「トビウオ（標準記録を突破した児童）」の3グループに分かれて、天気が悪い日以外、ほぼ毎日放課後1時間練習します。

水泳の練習で水泳の楽しさや達成感を味わい、生涯スポーツの基盤づくりを行うことがねらい。児童たちは厳しい練習で「最後までやりぬく力」を培っていきます。

新記録を達成した福田君は「自分にとって50m38秒の壁を突破することが大変でした。やったあ!という達成感でいっぱいです」と振り返り、自分の出場する個人種目をセーブしてリレーにかけたという荘君は「練習は厳しかったけど、リレーで結果が出てよかったです。お互いに声を掛け合って頑張りました」と話してくれました。

指導にあたった一人、佐藤巨教諭

「特練に参加した子どもたち全員、一生懸命頑張りました。自分の目標に向かって毎日続けて努力することはとても素晴らしいこと」と成果を話します。



佐藤浩之さん(29)  
(川上町地頭出身)

## 栄冠めざして おかやま国体

—馬術競技に「人馬一体」で望む—



「戻りました」とその時の体験を振り返ります。

今年の4月からは、将来を見据えて、広島県廿日市市に拠点を移し、乗馬クラブの経営を行っています。

岡山国体では、愛馬「オイリリ」（予定）とともに、目指すは「頂点」です。高知国体での優勝を思い起こし「やはり優勝は快感です」と話す言葉には、自信がうかがえます。今年の出場種目「成年男子スピードアンドハンディネス」は、国内の主力選手が出場する最もレベルの高い競技の一つといわれています。優勝から8位入賞までは、本当に僅差で決まり、わずかなミスが勝敗を分けます。

「馬の能力を信じ、馬をどうコントロールするかがカギ。人馬のバランスと信頼感が最も大切です。調子もまずまずで、国体本番をピークに持っていけるように最終調整していき、力を出し切るだけです」ときっぱり。

晴れの国おかやま国体（秋季大会）で馬術競技※「成年男子スピードアンドハンディネス」に出場する佐藤浩之さん。佐藤さんは、山形国体（平成4年）から数え、今回で9回目の国体出場となります。平成14年の高知国体では、馬術「成年男子ダービー」優勝をはじめ、これまで5度の入賞という輝かしい戦績を収めています。

乗馬は、父親が経営する「西部乗馬クラブ」（成羽町佐々木）で、8歳から本格的に開始。20歳からの約2年間は、馬術の本場フランスで武者修行も行った経験も。「馬自体が持つ身体レベルの高さや乗り手の技術の違いを痛感しました。片言の英語での生活でしたが、「苦勞した」という記憶はなく、乗馬に対する基本的な考え方が変わり、自信につながります。



大会は、10月23日から26日に、蒜山高原ライディングパーク（喜庭市）で行われます。表彰台の頂点を目指す佐藤さんに注目です。

※成年男子スピード&ハンディネス…障害馬術競技の中で、最もレベルの高い競技の一つ。障害物の過失なく、いかに短いタイムでゴールできるか走行所要時間を競う。

# 学園だより

## 「夏季短期研修団 受け入れ」について

吉備国際大学 スチューデントサポートセンター..  
留学生課 松永積恵



学校法人高梁学園と教育交流協定を締結している米国のフィンドリー大学、ブラジルのパラナ・カトリカ大学、パラナ連邦大学、台湾の稲江高級商業職業学校研修団総勢47人が、7月5日来園しました。午前中は、学内見学や学生との交流会を行い、学生同士友好を深めていました。昼食の後、市内の頼久寺をお借りして、日本文化に触れてもらいました。市内等からお招きした講師による茶道、書道、琴、ちぎり絵のデモンストレーションの後、研修団はそれぞれ、講師の指導のもとで、琴の音色が流れる中、ちぎり絵、書道などに真剣な面持ちで挑戦していました。お茶席は、ほとんどの学生が初めての経験で、お抹茶は少し苦かったようですが、一杯のお茶が振舞われるお手前の美しさに魅了されたようです。

夕方からは、高梁市国際交流協議会の主催で「国際交流市民の夕べ ボウリング大会」が開催され、多くの市民の参加を得て、盛大なボウリング大会となりました。それぞれのレーンでは、お互いに健闘をたたえあったり、励ましあったりと、日本・米国・ブラジル・台湾の国籍を越えた交流の輪が広がっていました。市民参加者の中には、研修団のホームステイを引き受けてくださった方もあり、写真を見ながら再会を喜ぶ姿も見られました。

夏季休暇を利用して、高梁学園から海外の教育交流協定校へ学生研修団を派遣していますが、今年度のイギリス研修は残念ながらテロのため中止となりました。このような大学・市民との小さな国際交流の輪が、大きな世界親善の輪に育ってほしいと願った一日でした。

■問い合わせ 高梁学園広報室 フリーダイヤル0120-25-9944 / e-mailアドレス:koho@kiui.ac.jp

### 編集後記

今年の夏も「備中たかはし松山踊り」をはじめ「マンガ絵ぶたまつり」など高梁市を代表するイベントがにぎやかに行われました。

新学期も始まり、我が家の子どもたちも元気がいっぱい始動しています。今年は、学校行事として国体の応援で通常授業が割られるために、例年より早い8月29日からの登校でした。元気がいっぱい登校する姿に、「お父さんもおんばあねば」と子どもからパワーをもらっています。

これまで、広報たかはしでも国体関係について紹介してまいりましたが、紙面でお知らせできる

## わたしの健康づくり



ねらえ!ホールインワン  
グラウンドゴルフ協会有漢会  
会長 石井 強さん(69)

念※「第1回市民交流グラウンドゴルフ大会」を主催しました。会場となった有漢農村公園グラウンドゴルフ場は、地元愛好家が整地から芝敷きまで自らの手で作り上げた天然芝の手作りで公認コース。赤・青・黄の3コースで全24ホール。維持管理も同行が行っており、毎回練習の前に30分ほど、場内外の草取りや掃除をしてから練習を始めます。

会長の石井さんは「グラウンドゴルフを通じて、健康づくりと生きがいづくりをして、いつまでも元気に楽しくプレーしたいですね。市内に限らず県内外からも多くの人たちが訪れるので交流の場にもなっています。これからもみんな元気に頑張りたい」と話します。



大会でプレーするメンバー

のも残すところ、今月と来月号だけとなりました。本当にいいですよ。今月号では、バレーボール競技のボランティアとして参加する中学生や高校生などを取材しましたが、みんな一様に、緊迫感が高まってきているように、「みんな協力して絶対成功させてみせる」という気持ちが伝わってきます。

選手として参加する郷土出身者の活躍も見逃すことができません。県代表という看板を背負い、周囲から期待される選手のプレッシャーは計り知れませんが、地元選手は私たちの誇りであり、ぜひがんばってもらいたいものです。(KN)

※ P11のカメラアラカルトで当日の様子を紹介しています。